

埼玉県花桐石灰岩の石灰藻

森 隆 二

(平成4年10月1日受理)

Calcareous Algae from the Limestone at Hanagiri, Saitama-ken

Ryuji MORI

(Received October 1, 1992)

1. まえがき

埼玉県正丸峠付近から高麗川、名栗川地域にかけて、ペルム紀のフズリナ化石を豊富に含む石灰岩および石灰岩礫が多く点在している。これらの石灰岩にはフズリナの他に石灰藻を含むものもある。筆者は、そのうち花桐石灰岩中の石灰藻について調べ、新たに3属2種の石灰藻が識別できた。

2. 高麗川、名栗川地域の地質概要

関東山地は主に中・古生界で構成されている。高麗川、名栗川地域は古くは藤本(1933)によって調査され、地質年代は後期石炭紀～中期ペルム紀とされていた。その後、森川・遠藤(1950)によってペルム紀と訂正された。堀口・竹内(1982)によると、この地域は、下位より上位へ高畑層、刈場坂層、間野層、上久通層、花桐層の5層に区分されている。ここで報告する石灰藻は、埼玉県飯能市花桐より採集したので、花桐層についてのみ記述する。堀口・竹内による花桐層は、伊豆ヶ岳、正丸峠、大蔵山、花桐一帯に広く分布し、小床や青場戸付近にもみられる。赤色および灰～暗灰色の層状チャートおよび塩基性火山岩がおもな岩相で、砂岩と粘板岩の互層、灰～灰白色石灰岩および石灰岩礫を含む角礫凝灰岩をともなっている。層厚は100～400mである。この地域には、大蔵山、花桐、小床、青場戸をむすぶ北西-南東方向の軸をもつ複向斜構造があり、軸部には花桐層が分布し、その北側の上久通層、刈場坂層、高畑層は南傾斜の同斜構造をしている。採集した花桐石灰岩は、図1に示したとおり高麗川の河床に分布する灰～白色石灰岩で

教養部地学第2研究室

森川(1955)は、この石灰岩からフズリナ化石 *Pseudo fusulina* を報告し、この石灰岩の層序を *Pseudofusulina* 帯とした。

3. 花桐石灰岩の石灰藻

この地域の石灰藻の研究は既に遠藤(1956)によっておこなわれているが、この研究は、関東山地および北上山地からの後期古生代石灰藻の研究で、広い地域におよんでいて、花桐石灰岩からは、*Mizzia velebitana*, *Oligoporella s-kwadai*, *Oligoporella nipponica*, *Ortonella Latifibrosa*, *Ortonella ramosa* の3属5種を報告している。筆者はここ数年この地域の石灰藻を調べその結果新たに次の属種が識別できた。即ち *Gyroporella* sp. (a), (b), *Mizzia yabei*, *Pycnoporidium toyamai* の3属2種である。(図版1, 2)

このうち *Mizzia* は多くの個体が含まれており、種の分類については更に多くの種が含まれている可能性がある。更に保存の良い標本を集めて検討する必要がある。*Mizzia velebitana* SCHUBERT と *M. yabei* (KARPI-NSKY) の相異は PIA(1920) による復元図があるので、図版1, の2, と3, に示した。

Pycnoporidium は中生代の石灰藻とし報告されているがペルム紀からの報告は極めて少ない。*Pycnoporidium toyamai* ENDO は遠藤(1956)によって秩父市上影森より採集した標本に命名されたものである。

本学家政学部栄養学科理科コース4年生の野澤重美さんと廣瀬由美子さんには、標本採集および薄片作製に協力していただいた。記して感謝いたします。

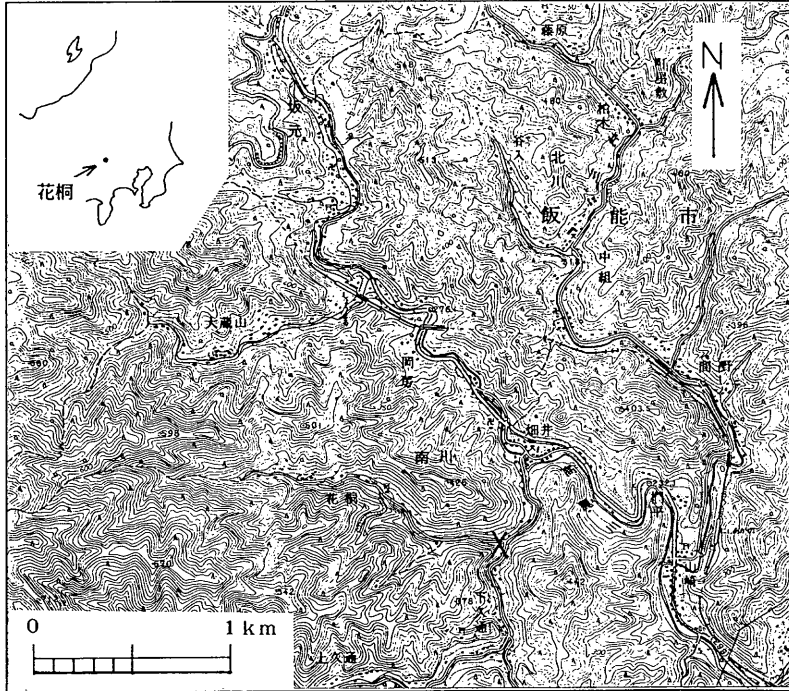


図1. 石灰藻化石産地
 X印は化石産地
 (国土地理院発行2.5万分の1
 地形図「正丸峠」を使用)

参 考 文 献

図 版 説 明

Endo R. :Sci. Rep. Saitama Univ., Ser. B,2,(2)
 221-248, 1956
 Johnsson, J.h. and Dorr: Jour.Palenont.,16(1)6
 3-77,1942
 Morikawa, R. :Rep.Saitama Univ.Ser.B,2, (1)
 45-114,1955
 大森晶, 端山好和, 堀口万吉 編:日本の地質3,
 関東地方, 1986

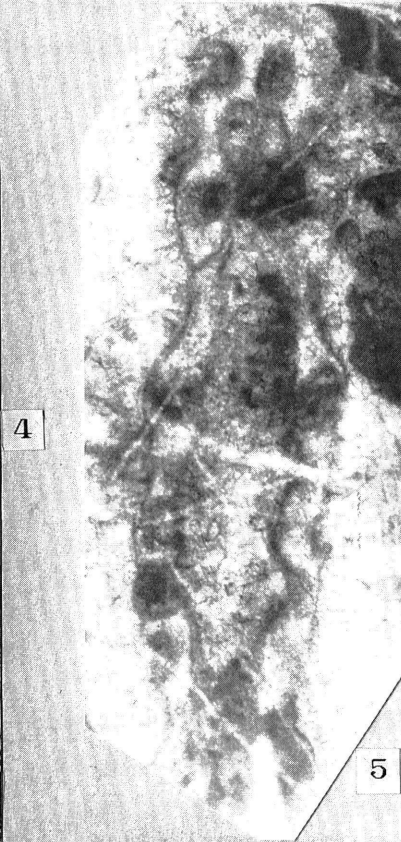
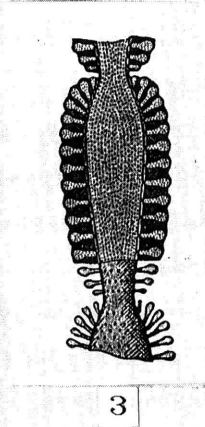
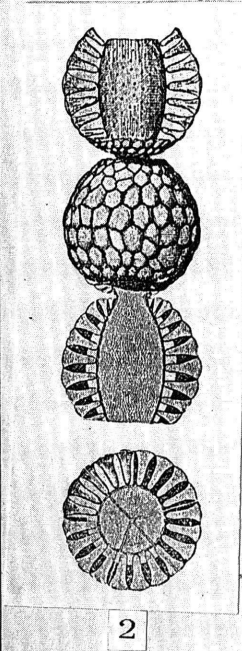
図版1.

1. 2. 4. *Nizzia velebitana* SCHBERT
 1. 縦断面 ×18 2. P_{1A}(1920)による
 復元図 4. 縦断面 ×36
3. 5. *Mizzia yabei* (KARPINSKY)
 3. P_{1A}(1920)による復元図 5. 縦断面×24

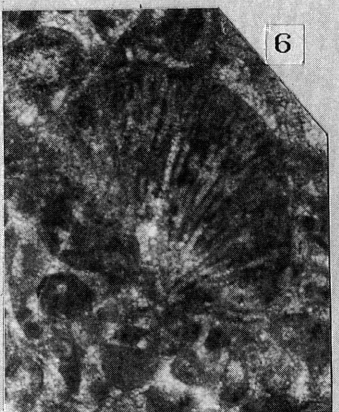
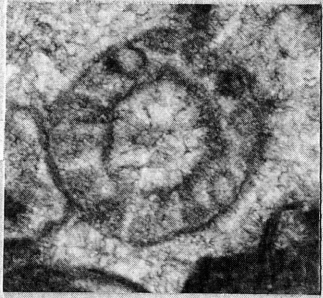
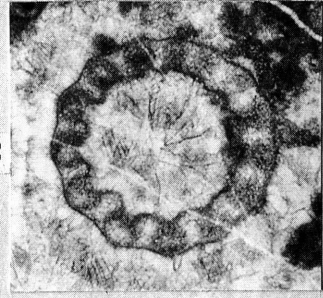
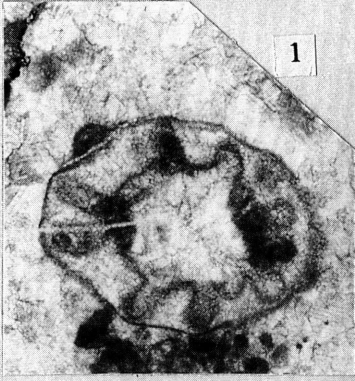
図版2.

1. 4. *Oliroporella s-kawadai* ENDO
 1. 横断面 ×24 4. 縦断面 ×24
2. 3. *Gyroprella* sp. (a), (b)
 2. (a)横断面 ×24 3. (b)横断面×24
6. *Ortomella latifibrosa* ENDO ×36
5. *Pycnoporidium toyamai* ENDO ×17

図版 1.



图版 2.



Summary

The calcareous algae from the limestone at Hanagiri, Saitama-ken were already studied by Endo R. (1956). He reported three genera and five species, those were *Mizzia velebitana*, *Oligoporella s-kawadai*, *O. nipponica*, *Ortonella Latifibrosa* and *O. ramosa* from the locality. The writer reported *Mizzia yabei*, *Gyroporella sp.* and *Pycnoporidium toyamai* from the same locality.